2009 年（第 10 期）IPv6 分科会活動報告

・活動趣旨・実施概要

通年の活動としては、初めての活動となった IPv6 分科会であるが、活動の柱としては

１．　環境の構築

２．　教材開発

であり、ILA 事務局や Web サーバの IPv6 化、また、マルチベンダによる教材開発を行った。

・平成 21 年度（平成 21 年 6 月～平成 22 年度 5 月）活動状況

（１）　環境の構築

事務局環境については、当初 OCN の IPv6 回線を ADSL 経由で導入し蒲田に移転後も運用していたが、サービスが平成 22 年 5 月末で停止することとなったため、5 月初旬よりトンネリングサービスでの環境へと移行を行った。

Web サービスについては、デュアルスタック化を行うとともに、IPv6 でアクセスした場合の見え方の差別化を図り、ipv6.ila.or.jp という v6 でのみアクセスできるようにする AAAA レコードを用意するなどして、ILA が IPv6 に取り組んでいる状況を明確に PR するとともに、セミナーやハンズオンなどの際、IPv6 でのアクセスを確認できるようにした。

トンネリングについては teredo のサーバの設置を行ったが、実際の v6 アクセスを高速化するためには teredo リレーの設置が必要だと判明し、こちらは太い回線や BGP のピアを張ることが要求されるため断念した。またサーバについても IPv6 環境がトンネリングに移行するのを機に IPv4 のアドレスが不足するため、いったん停止した。ただしこれらの活動により Tokyo6to4 が teredo サービスを試験的に開始する契機をもたらすことができた。

http://www.mfeed.co.jp/press/2010/20100609.html

（２）　教材開発

教材については特定ベンダに偏らないという方針を据え､機種を ALAXALA(NEC)、CISCO、YAMAHA から選び、IPv6 に関する、スタティックルート、各種ルーティングプロトコル、トンネルの設定等の教材開発を行った。

その成果として、まず 8 月に札幌にて行われた ILA カンファレンスにおいてユーザ視点のハンズオン資料とネットワークエンジニア視点の資料を作成し、実際にハンズオンを行い、好評を博した。

また、実際に作成した教材を、2009 年 11 月に東北大学で行われた情報教育研究集会において、サンプルを展示するとともにポスターセッションにおいて発表した。

これらの成果は 2010 年 8 月以降に予定されるネットワーク教材開発 PJ の中の一部として発表される予定である。